

シラバス

指定番号

商号又は名称： 株式会社 ニチイ学館

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。 ・安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の住宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い最後に事例に基づく総合的な演習を行う。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑨入浴、清潔保持に関連した こころとからだのしくみと自立に向けた介護	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、入浴用具と整容用具の活用方法 入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法 ・羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭・足浴・手浴・洗髪。 ・陰部清浄(臥床状態での方法)・目・鼻腔・耳・爪の清潔方法
⑩排泄に関連したこころと体の しくみと自立に向けた介護	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) 排泄に関する基礎知識や排泄環境整備と排泄用具の活用方法、 爽快な排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・排泄とは・身体面(生理面)での意味・心理面での意味・排泄障害が日常生活に及ぼす影響 ・便秘の予防・プライド・羞恥心・プライバシーの確保・おむつ使用と弊害 ・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法
⑪睡眠に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) 睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころと体の要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫・環境の整備・安楽な姿勢・褥瘡予防
⑫死にゆく人に関連したこころと からだのしくみと終末期介護	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程・臨終が近づいたときの兆候と介護・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性
ウ 生活支援技術演習 ⑬介護過程の基礎的理解	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) 介護過程の目的・意義・展開・介護過程とチームアプローチ
(合計時間数)				

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

平成 年 月 日現在

シラバス

指定番号

商号又は名称： 株式会社 ニチイ学館

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。 ・安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の住宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い最後に事例に基づく総合的な演習を行う。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑭総合生活支援技術演習	6			(講義内容・通信学習課題の概要等) ・事例の提示→こころと体の力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ・講義事例：高齢(80歳)要支援3、認知症 ・演習事例：1 高齢(84歳)要支援2、認知症(帰宅願望/無気力) 2 高齢(73歳)要支援2、右片麻痺、糖尿病、独居
(合計時間数)				

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

(別添 2 - 2)

平成 年 月 日現在

シラバス

指定番号

商号又は名称： 株式会社 ニチイ学館

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。 就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	3			(講義内容・通信学習課題の概要等) 研修を通して学んだこと・今後継続して学ぶべきこと・根拠に 基づく介護についての要点
②就業への備えと研修修了後 における事例	1			(講義内容・通信学習課題の概要等) 継続的に学ぶべきこと・研修修了後における継続的な研修につ いて 具体的にイメージ出来るような事業所等における事例 (OJT、 Off-JT) を紹介 キャリアアップに関する国の考え方
(合計時間数)				

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。